

# 河岸砂丘および後背湿地の植生の成帯構造: 南北海道・青森県における例

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-03 キーワード: 作成者: 江口, 誠一, Eguchi, Sei-ichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00055579">https://doi.org/10.24517/00055579</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 江口誠一\*：海岸砂丘および後背湿地の植生の成帯構造 — 南北海道・青森県における例

Sei-ichi Eguchi: Zonation of Vegetation in Coastal Sand Dune and Backmarsh—  
Case Study in Northern Japan

沿岸域では様々な環境因子により微地形が形成され、それに植物群落が対応するよう分布している。海浜植生は前浜側から後浜側にかけて成帯構造を呈しており、従来多くの研究がなされてきた。砂丘部の後背にはしばしば湿地が存在し、そこでも帯状分布の群落がみられる。しかしこれについての報告は比較的少ない。小稿は、自然の海岸地形がよく残っている南北海道・青森県に位置する4箇所での、海岸砂丘から後背湿地に至る植生の成帯構造について報告する。

## 調査方法および調査地

調査は1992年7月下旬から8月初めに行った。植生は海側から陸側にかけての直線 (Fig. 1) に沿って2m四方のコドラートを設定し、Braun-Blanquet (1964) に従って出現種の優占度と群度を調べた。また、各地点の海拔高、植生高、植被率も測定した。

調査地域は北海道の温根沼と鶴川河口域、青森県の六ヶ所と追良瀬川河口域の4地域である (Fig. 1)。

温根沼は根室半島西端の根室湾岸に位置する汽水湖である。周囲は段丘崖に囲まれており、オンネベツ川をはじめとする数本の河川が流入する。外海側には干潟が広がる。潮口付近の干潟と段丘の間の後浜には、バーム (汀段) や塩水沼、塩湿地が分布する。調査は、潮口西側で汀線から8m陸側のバームから塩水沼にかけての測線で行った。バームは一部砂丘化しており、最高潮位との比高は0.85mである。塩水沼は通常閉塞されているが、大潮の満潮時は外水が流入することもある。堆積物は、バームでは淘汰のよいシルト質細砂、塩水沼では有機質泥となる。

鶴川河口域は勇払平野東部に位置する。汀線から約1km内陸にかけて広がる砂丘には鶴川本流にそぎ込む水路がみられる。調査は汀線から53m陸側の、植被がみられはじめる地点から水路付近までの測線で行った。堆積物は、いずれも淘汰のよい中砂で汀線付近では細礫を含む。

六ヶ所は下北半島東部太平洋岸に位置する。その

泊集落南の段丘崖下の海岸沿いには幅300mの低地が広がり、砂丘や湿地が分布する。砂丘と最高潮位との比高は0.6mである。調査は汀線より60m陸側の地点から砂丘を経て湿地にいたる測線で行った。堆積物は、いずれも淘汰のよい中砂で湿地では有機質となる。

追良瀬川河口域は白神山地北の日本海沿岸に位置する。段丘崖に囲まれた幅500mの追良瀬川の開析谷谷底には砂丘や湿地が広がる。調査は汀線から44m陸側の植被がみられはじめる地点から湿地にいたる測線で行った。堆積物は、いずれも淘汰のよい中～粗砂で、汀線付近では細～中礫を含み、湿地では有機質となる。

## 結果および考察

温根沼の植生は、バームと塩水沼を中心にいくつかの群落で構成されている (Table 1)。地点1~4はハマニンニクが優占し、ハチジョウナ、ヨシ、ホコガタアカザが分布する。これらの地点は海拔80cm台でバームの頂上部にあたり、堆積物の含水量も比較的少ないと考えられる。地点5~10はヨシが増加し、ドジョウツナギ属、ホソバハマアカザ、チシマヨモギ、シバナが出現する。これらは海拔が徐々に低くなるバーム陸側斜面にあたる。地点12~14はヤマアワ、ヨシが優占し、ヤラメスゲが出現する、高さ5cmほどの小さな浮島である。地点15~20はキタフトイが出現し、ヨシが徐々に減少する。地点21~27になるとヨシ、ヒメウシオスゲがわずかにみられ、植被率40%以下の塩水沼中央部にあたる。地点28からは植被率も回復し、ヨシ、ヒメウシオスゲの増加、キタフトイ、クロハライの出現がみられる。地点55~58はヤマアワ、ヤラメスゲが出現し、海拔も徐々に高くなる。

鶴川河口域の植生は、全地点でコウボウシバが分布し、水路周辺の砂丘最高位に特徴的な群落がみられる (Table 2)。地点1~9はエゾノコウボウムギ、ハマニガナ、オカヒジキ、ハマヒルガオ、ウンラン、ハマニンニク、ホコガタアカザが点在する。地点10~11はエゾノコウボウムギ、ハマニンニクが出現

\*〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学理学部 Faculty of Science, Osaka City University, Osaka 558, Japan



Fig. 1. Location map of studied areas.

A, Onneto. B, estuary of the Mukawa River. C, Rokkasyo. D, estuary of the Oirase River.

(Using 1: 25000 topographic maps "Tobai", "Mukawa", "Mutsu-yokohama" and "Todoroki" published by Geographical Survey Institute)

するが、このことはこれらの地点が地形的に傾斜変換点にあたり、比較的堆積物の移動が少ないことによると考えられる。地点13~16はウンラン、ヨシ、ウキヤガラ、ヤラメスゲ、カズノコグサが出現し、砂丘最高位にあたる。

六ヶ所の植生は、大きく分けて砂丘で4、湿地で1の群落を確認された (Table 3)。地点1~11はコウボウムギ、ハマニガナが優占する。地点14~27はハマニンニク、コウボウシバが出現する。地点27~29はヤマアワ、イヌイが出現し、海拔も10 cm代と周囲よりも低くくぼんでいる。地点30~40はハマエンドウ、オオウシノケグサ、ハマヒルガオ、ハマナスが優占し、ヨモギが出現する。これらの地点の堆積物は、比較的有機質で物質移動が少なく安定しており、中西・福本 (1990) のいうハマナス帯に相当する。地点41~70はヨシが大群落を形成している湿地で、他の種は分布していない。

追良瀬川河口域の植生は、大きく分けて砂丘で3、湿地で1の群落を確認された (Table 4)。植生の構造は六ヶ所と共通するところが多いが、ハマナス帯 (中西・福本 1990) が欠如する。地点1~4は

コウボウムギ、ハマニガナが優占する。地点5~12はハマヒルガオ、コウボウシバが優占し、スナビキソウが出現する。地点13~19はハマニンニク、コウボウシバが優占し、砂丘頂上部へ向かう斜面にあたる。砂丘頂上部は今後有機物が蓄積され、ハマナス帯 (中西・福本 1990) が形成されると予想される。地点21~32はヨシが大群落を形成している湿地で、他の種は分布していない。

元千葉県立中央博物館の大場達之氏には海岸植生についてご教授頂いた。神奈川県立博物館の勝山輝男氏には植物標本の鑑定をして頂いた。以上の方々 に記してお礼申し上げます。

#### 引用文献

Braun-Blanquet, J. 1964. Pflanzensozologie 3 Aufl. 865 pp. Springer Verlag, Wien.

中西弘樹・福本 紘. 1990. 北海道オホーツク海沿岸における海浜 植生の成帯構造と地形. 植物地理・分類研究 38: 51-60.

(received July 27, 1996)



